

・事業年度

毎年4月1日～翌年3月31日

・定時株主総会

毎年6月

・基準日

定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
中間配当：毎年9月30日

・公告方法

電子公告(www.nissanchem.co.jp)
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

・1単元の株式の数

100株

・上場金融商品取引所

株式会社東京証券取引所

・株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

〒100-8233
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

・同事務取扱場所

〒100-8233
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

・郵便物送付先・電話お問合せ先

〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
0120-782-031(フリーダイヤル)

●住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座に記録されました株主様は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●未払配当金のお支払いについて

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
但し、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などにて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

IR情報はホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nissanchem.co.jp>



日産化学工業

検索

株主・投資家の皆様へ

Business Report

第145期 報告書

2014年4月1日から2015年3月31日まで



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当期における国内景気は、消費増税前の駆け込み需要の反動および物価上昇により個人消費は弱含みで推移しましたが、円安を背景として輸出関連企業を中心に企業収益が改善し、緩やかな回復基調となりました。

当社グループの事業につきましては、化学品部門では、国内需要が低迷するなか、原油価格の下落および円安の恩恵を享受しました。機能性材料部門では、市場ニーズに対応した製品を投入し、ディスプレイ材料および半導体材料が伸長しました。農業化学品部門では、国内販売は消費増税の影響を受けましたが、新規水稲用除草剤等で補いました。海外向けは、好調な農業に加え、フルラネル(動物用医薬品原薬)が大きく利益に貢献しました。医薬品部門は、「リバロ」(高コレステロール血症治療薬)の後発品の台頭により、厳しい状況を余儀なくされました。

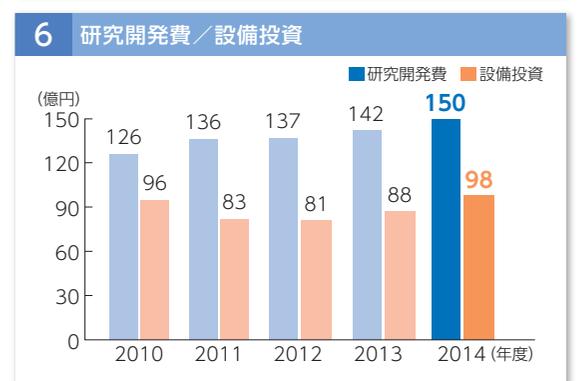
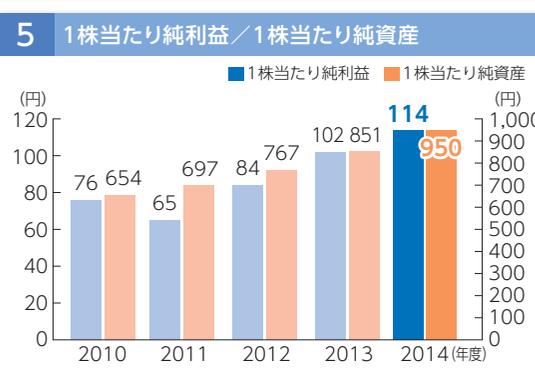
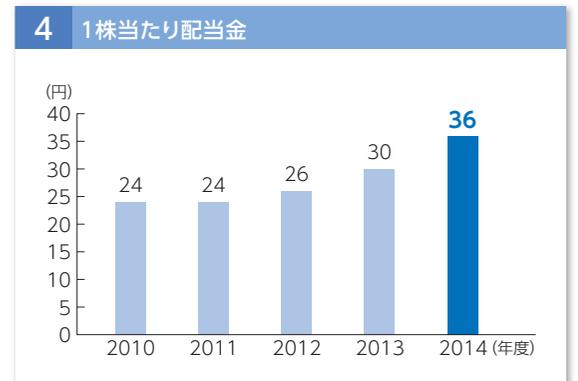
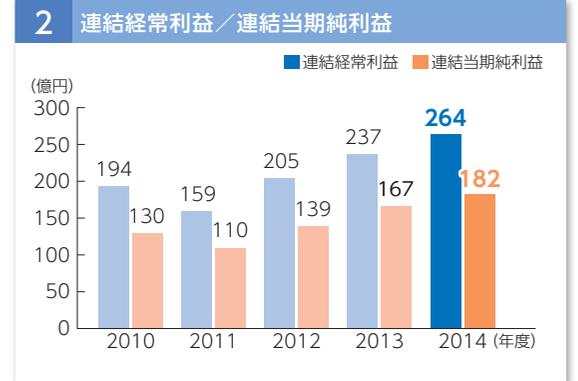
この結果、第145期における売上高は1,712億6百万円(前年同期比75億48百万円増)、営業利益は過去最高益となる253億47百万円(同31億円増)となりました。また、期末配当金は1株につき22円、中間配当金を含めた年間配当金では36円(前期年間配当金に比べ6円増配)とさせていただきます。

今後の見通しにつきましては、原燃料価格の低下が見込まれるものの、変化の激しい電子材料分野における顧客動向、後発医薬品の増勢など、予断を許さない事業環境が継続するものと予想しております。このような情勢のなか、当社グループは、最終年度を迎える3か年の中期経営計画「Vista2015 StageII」で定めた基本戦略を着実に実行し、利益目標の達成に全社を挙げて取り組む所存です。一方で、本年新たに1名外部から取締役を招聘し、取締役8名のうち2名を社外取締役といたしました。これにより、業務執行に対する監督強化、経営の健全性および透明性のさらなる向上に努めてまいります。

また、「優れた技術と商品・サービスにより、環境との調和を図りながら、社会に貢献する」という企業理念のもと、コンプライアンス(法令および社会規範の遵守)の徹底、環境への一層の配慮、社会貢献活動などを通し、すべてのステークホルダー(利害関係者)から信頼される企業グループとして、健全で誠実な事業活動を推進いたします。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 木下 小次郎

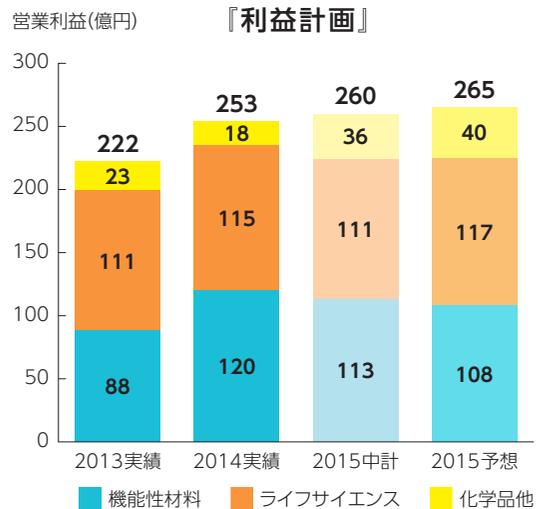


—変革への挑戦、そして勝ち続ける企業へ—

「機能性材料(電子・無機・有機)とライフサイエンス(農薬・医薬)の2分野が成長牽引の両輪となり、化学品および関係会社が収益基盤を固めることで、成長力と安定感のある化学メーカーとしての地位を確立する。」

これは、2013年4月に始動した中期経営計画「Vista 2015 StageII」で定めた2015年度のあるべき姿であり、当社グループは、この実現に向けて、2つの基本戦略に基づく諸施策を着実に実行してまいりました。

その結果、当社グループの2015年度における業績予想は、売上高1,810億円、営業利益265億円となり、いずれも中期経営計画の目標を上回っております。また、主要経営指標である売上高営業利益率、ROEにつきましても、ともに計画を達成する見込みとなっております。



第1の戦略「新事業・新製品の創出」

1. 動物用医薬品分野への進出

当社は、米国メルク社のアニマルヘルス部門であるMSD Animal Health (MSD) 社が開発した動物用医薬品「ブラベクト®」の有効成分となるフルララネルを発明しました。

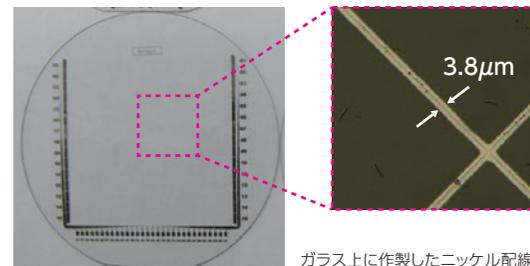
「ブラベクト®」は、EU(欧州連合)で2014年4月、米国において2014年6月に上市され、現在、世界約40か国で販売されています。

フルララネルは、当社がMSD社に販売している原薬であり、グループの利益に大きく貢献しています。

2. 九州大学との連携

・「ハイパーテック」

表面改質材料、無電解めっき核剤などで開発を進め、タッチパネル分野の耐指紋用途で顧客採用を果たしました。また、無電解めっき核剤は、めっきに使用する金属の量を10分の1に削減できることに加え、真空装置も不要なことから、ユーザーサイドでのコスト削減につながる材料として幅広く普及することを期待しています。



・「ナノファイバージェル」

「ナノファイバージェル」は、高分子ゲルと比較して、ベトツキが少なく、極めて水に近い感覚であるという特長を有しています。ゲルスプレー基材として有効で、軽く指で押す程度の力で急速にゾル化するためノズル詰りがなく、スプレーで噴射すると霧状になります。付着後はすぐにゲル化するため、液だれもありません。

他の成分とあらかじめ混合したプレミックス製品のラインアップを拡充し、化粧品、医薬部外品、医薬添加剤として展開しています。



スプレー

クリーム

3. 細胞医療関連材料

当社は、3次元培養培地(P.9トピックス参照)、iPS細胞由来血小板の体外増幅剤など、先端の細胞培養技術に貢献する材料開発を進めています。

血小板体外増幅剤はiPS細胞から止血効果のある血小板を大量に作製するために用いられるものです。血小板が慢性的に不足している状況のなか、iPS細胞から血小板を大量に作製することにより、輸血治療用の安定的な血小板供給源になることが期待されています。

4. 研究

当社は、昨年10月、材料研究の効率性と実効性を高めるため、研究体制を変更しました。電子材料研究所と無機材料研究所を統合し、新たに材料科学研究所を発足させました。併せて、先端材料研究部と次世代材料研究部を新設し、当社グループの将来の柱となる新材料の研究開発に注力しています。

一方、ライフサイエンスでは、生物科学研究所の抜本的なリニューアル計画が順調に進捗しています。2011年度から2014年度までに、医薬研究を中心とする研究本館、40万点以上の化合物を収容できるライブラリー、海外の気候を再現できる人工気象室、農薬研究棟、温室などが完成しました。引き続き、温室、栽培管理棟などの工事に着手し、2017年3月に本整備計画が完了する予定となっております。



生物科学研究所 農薬研究棟

第2の戦略「事業の構造改革推進」

1. アンモニアの原料転換

当社は、アンモニア事業の構造改革の一環として、富山工場で生産しているアンモニアの原料をナフサから天然ガスに転換することを決定しました。

富山工場では、1928年に水の電気分解によるアンモニア製造を開始。その後、事業環境の変化に対応し、石炭、重油、原油を原料とする製法を順次導入してきました。1967年、設備の大型化および合理化を目的として、現在の製法であるナフサ法に切り替えました。

本計画に伴う工事が完了する2016年8月以降は、ナフサより価格変動幅が小さい天然ガスを原料とすることで、アンモニアをはじめ、尿素、メラミン、硝酸など各種誘導品の収益安定化を図ります。

2. 海外展開の加速

・海外拠点

電子材料では、主力市場である韓国に研究と製造の拠点、台湾に研究機能を保有しています。

農業化学品では、昨年中国上海に現地法人を設立し、農業の営業支援および普及開発活動を強化することで、成長する中国の農業市場での拡販を目指しています。

・グローバル人材の育成

海外事業拡大を図るうえで、グローバル人材の確保および育成が不可欠であると捉え、海外留学制度を新設しました。昨年、第1期として英国、カナダ、中国に4人を派遣しました。今後も毎年5～10人の規模で、継続的に実施します。

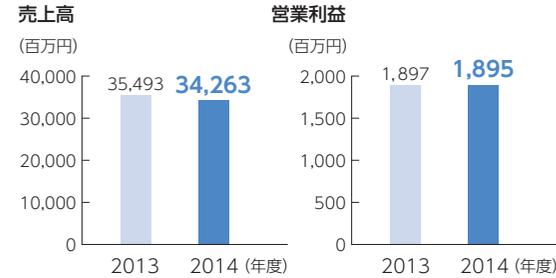


海外留学先での授業風景

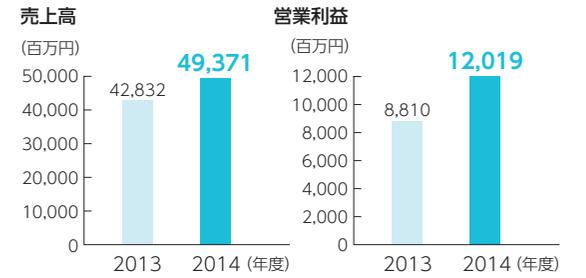
当社グループは、これまで培ってきた誠実な企業風土のもと、全社員が一丸となって、ますます多様化・高度化する市場の要求への対応力を強化し、コーポレートビジョン「人類の生存と発展に貢献する企業グループ」の実現に向けてまい進してまいります。



1 化学品部門



2 機能性材料部門



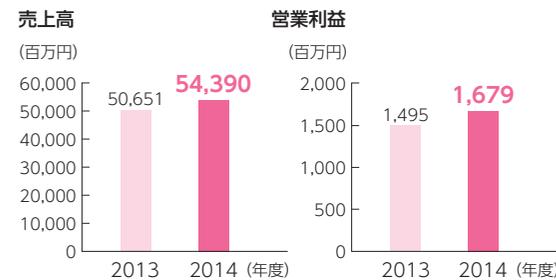
3 農業化学品部門



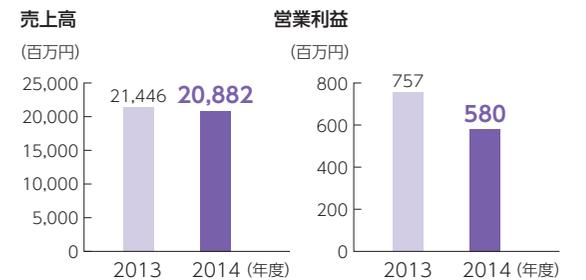
4 医薬品部門



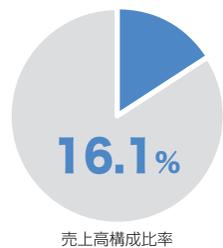
5 卸売部門



6 その他の部門



1 化学品部門



売上高構成比率

基礎化学品では、ナフサをはじめとする原燃料事情は改善し、高純度液安の販売量は増加しましたが、メラミンは国内外ともに低迷しました。ファインケミカルでは、「**テピック**」(封止材用等特殊エポキシ)は円安の後押しを受けて好調に推移しましたが、「**ハイライト**」(殺菌消毒剤)は価格競争激化により苦戦しました。この結果、当部門の売上高は342億63百万円(前年同期比12億29百万円減)、営業利益は18億95百万円(同1百万円減)となりました。

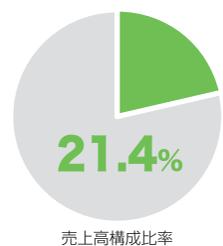


「アドブルー」BIB(バグインボックス)

<主要製品>

- 基礎化学品(メラミン、硫酸、硝酸、アンモニア等)
- ファインケミカル(封止材用等特殊エポキシ、難燃剤、殺菌消毒剤等)

3 農業化学品部門



売上高構成比率

国内に関しては、「**ラウンドアップ**」(非選択性茎葉処理除草剤)および「**アルテア**」(水稲用除草剤)の販売が伸びました。また、輸出につきましては、「**タルガ**」(畑作用除草剤)および「**パーミット**」(水稲・畑作用除草剤)の堅調な出荷、さらに、フルラナレルを含む動物用医薬品が欧州および米国で上市されたことにより急伸びしました。この結果、当部門の売上高は456億82百万円(前年同期比65億51百万円増)、営業利益は92億44百万円(同30億15百万円増)となりました。

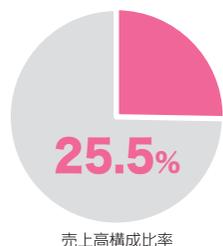


ラウンドアップマックスロードAL

<主要製品>

- 農業(除草剤、殺虫剤、殺菌剤、殺虫殺菌剤、植物成長調整剤)
- 動物用医薬品原薬

5 卸売部門



売上高構成比率

ディスプレイ材料関連製品および農業化学品製品が牽引し、当部門の売上高は543億90百万円(前年同期比37億38百万円増)、営業利益は16億79百万円(同1億83百万円増)となりました。

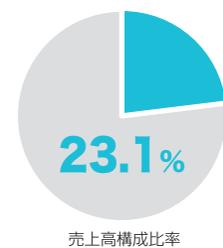


日正井(上海)北京分公司

<主要事業>

- 化学品
- 機能材料
- 環境資材
- 合成樹脂
- 輸出入
- 保険

2 機能性材料部門



売上高構成比率

「**サンエパー**」(液晶表示用材料ポリイミド)は、液晶表示方式のIPSへの移行が進み、特にスマートフォンなど中小型向けが伸びました。また、「**ARC***」(半導体用反射防止コーティング材)および多層材料は、半導体の微細化進展に伴い需要が拡大しました。「**スノーテックス**」(電子材料用研磨剤、各種表面処理剤)は、電子材料用研磨剤向け販売が前年を上回りました。この結果、当部門の売上高は493億71百万円(前年同期比65億38百万円増)、営業利益は120億19百万円(同32億8百万円増)となりました。

*ARC®はBrewer Science, Inc. の登録商標です。



NCK ポリイミド第2工場

<主要製品>

- ディスプレイ材料(液晶表示用材料ポリイミド等)
- 半導体材料(半導体用反射防止コーティング材等)
- 無機コロイド(電子材料用研磨剤、各種表面処理剤等)

4 医薬品部門



売上高構成比率

「**リバロ**」原薬は、米州およびアジアなど海外向けは順調でしたが、国内向けは後発品の影響により、大幅に落ち込みました。一方で、「**ファインテック**」(医薬品研究開発参加型事業)は、製品出荷が増加しました。この結果、当部門の売上高は88億12百万円(前年同期比27億37百万円減)、営業利益は23億8百万円(同26億31百万円減)となりました。

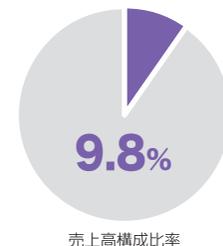


高コレステロール血症治療薬「リバロ」

<主要製品>

- 高コレステロール血症治療薬原薬

6 その他の部門



売上高構成比率

当部門の売上高は208億82百万円(前年同期比5億63百万円減)、営業利益は5億80百万円(同1億77百万円減)となりました。



植栽(日産緑化)

<主要事業>

- 肥料(高度化成等)
- 造園緑化
- 環境調査
- 運送
- プラントエンジニアリング等

がん細胞用3次元培養培地「FCeM」シリーズの販売開始

当社は、昨年10月より、新たに開発したがん細胞用・新規3次元培養培地「FCeM」シリーズの販売を開始しました。これは、当社が独自研究により発見した天然系ポリマーを基材とし、細胞低接着プレートと組み合わせることで、従来の2次元培養に比べて、生体内の組織に近い状態でがん細胞を培養することを可能にします。また、「FCeM」を用いた際のがん細胞の増殖数を確認したところ、対照培地に比べて、最大で10倍となりました。これまで、製薬メーカー、研究機関などにサンプルワークを進める一方で、自社研究を推進してきましたが、今般、供給体制が整ったことから、本格販売に移行しました。

さらに、京都大学などとの共同研究により、同基材を用いてヒト多能性幹細胞(ES/iPS細胞)の大量培養に適した新たな3次元培養法の開発にも成功しました。本技術はヒトES/iPS細胞を用いた再生医療の実用化や創薬研究に寄与するものと期待しています。



犬用ノミ・マダニ駆除薬「ブラベクト®錠」日本で販売承認取得

MSD Animal Health社の子会社である株式会社インターベット(以下「IVKK」)が、日本における犬用ノミ・マダニ駆除薬「ブラベクト®錠」の販売承認を取得しました。

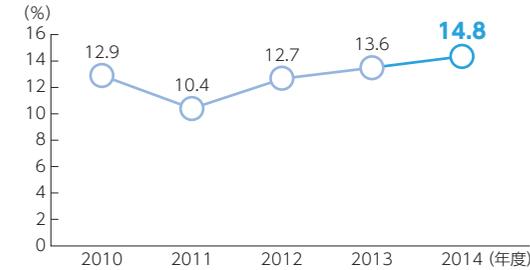
国内の動物医療におけるノミ・マダニ駆除薬分野は、毎年成長している領域であり、その市場規模は約60億円となっています。マダニが犬に寄生した場合、皮膚炎、貧血、栄養障害などの病気を引き起こすことに加え、特に近年、ダニが媒介するSFTS(重症熱性血小板減少症候群)などの疾患について、人に対する死亡被害が報告されていることから、ダニの確実な駆除が望まれています。

「ブラベクト®錠」剤は、①おいしいフレーバー錠1剤で、②ノミとマダニの2種を、③3か月間予防できる薬剤で、飼い主の毎月の投薬の煩わしさを軽減させることができます。

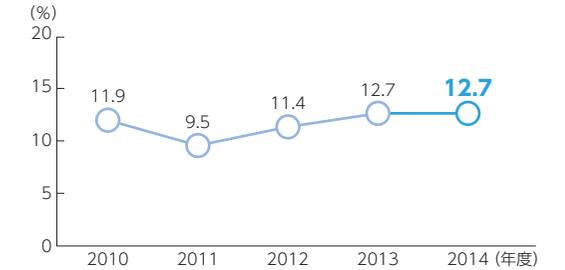
IVKKおよび本剤の原薬供給会社である当社は、「ブラベクト®錠」剤の販売を通じ、家族の一員である犬の健康促進と飼い主との絆をより強くすることに貢献していきたいと考えております。



売上高営業利益率



ROE



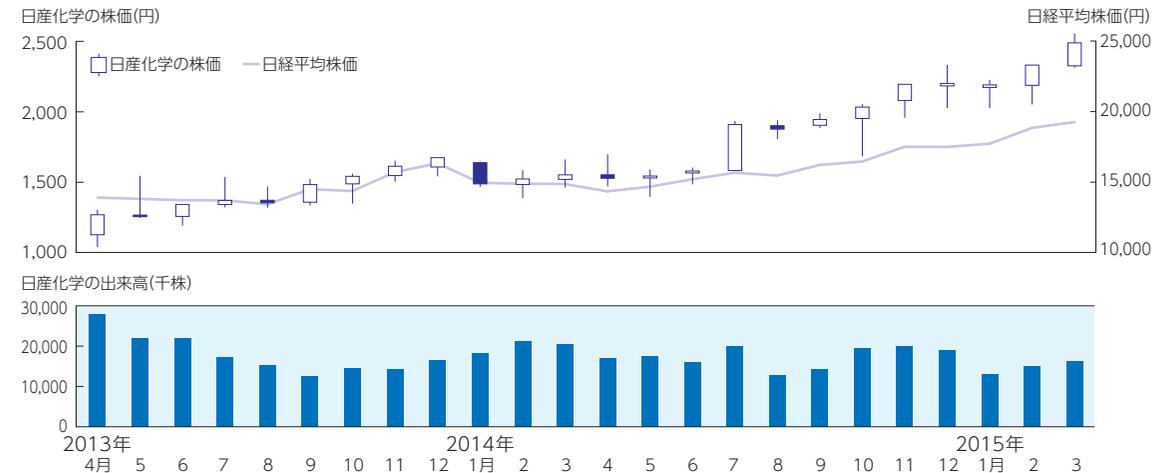
売上高研究開発費率



自己資本比率

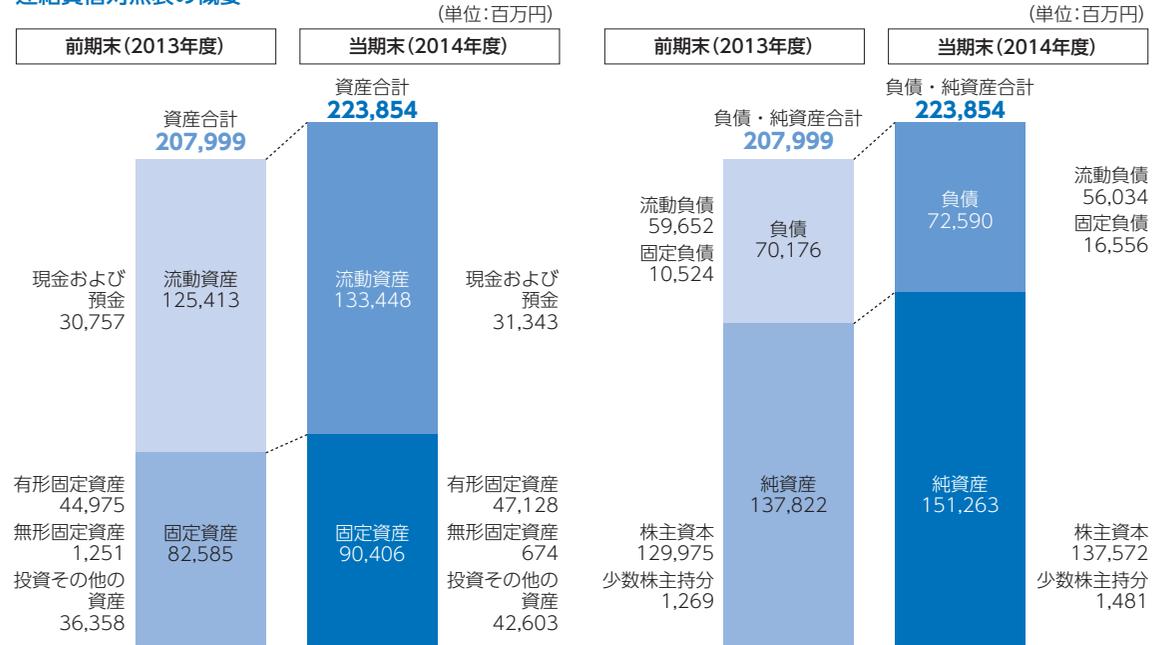


株価および出来高：月間(2013年4月～2015年3月)

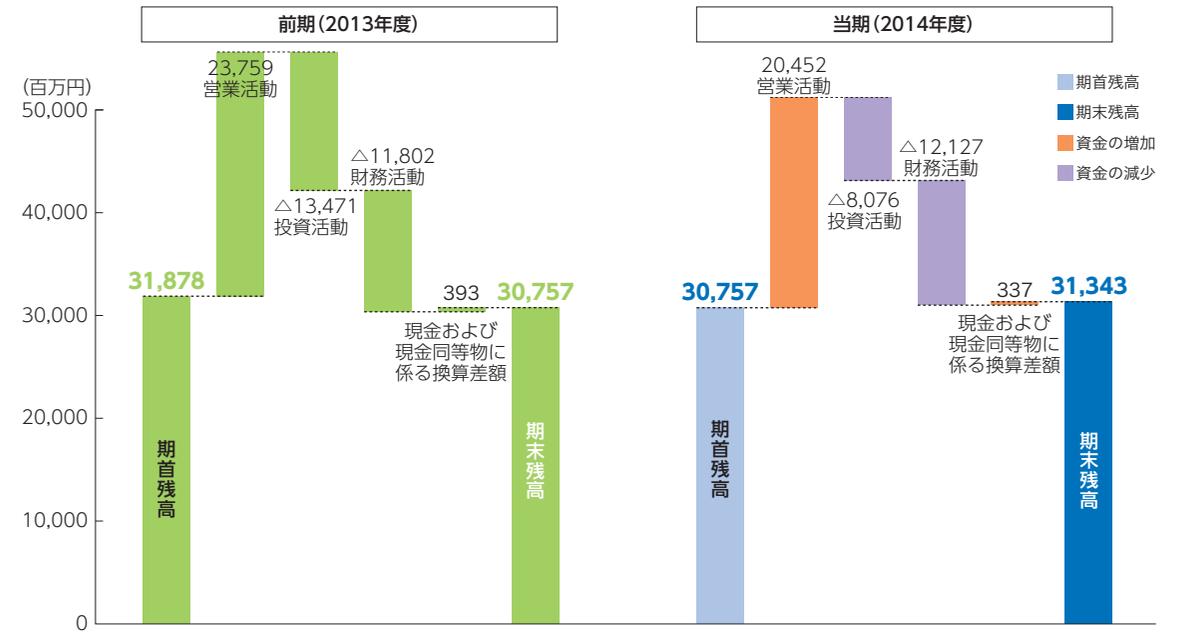


連結財務の状況

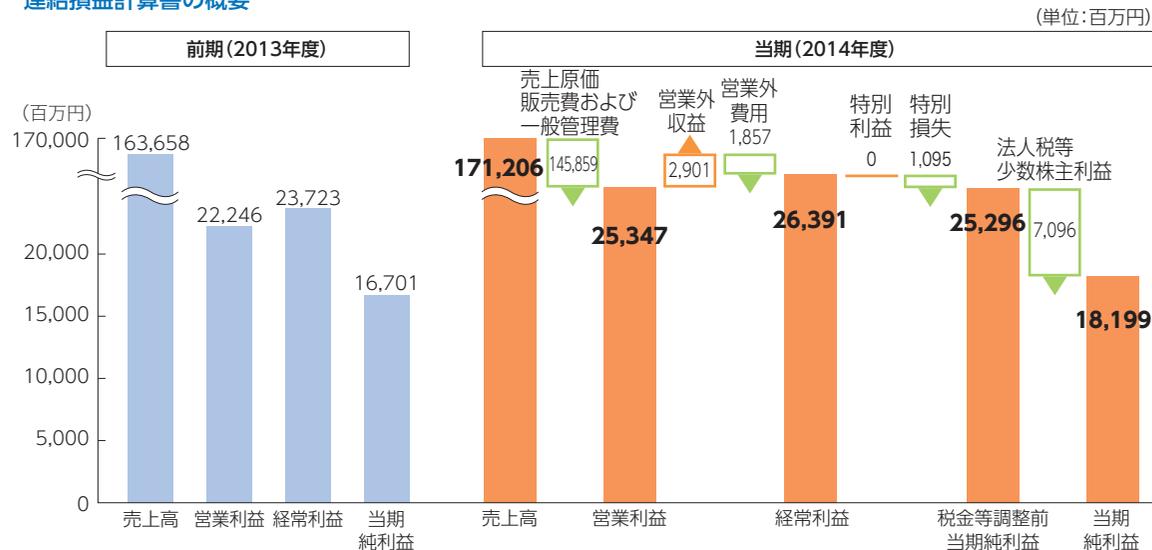
連結貸借対照表の概要



連結キャッシュ・フロー計算書の概要



連結損益計算書の概要



貸借対照表のPOINT 極めて良好な財務基盤

自己資本比率*は66.9%となっており、高い水準を維持しております。

*企業の安定性を示す指標

損益計算書のPOINT 過去最高益

当社は長期にわたって高い利益率を維持しております。

今期の利益は、営業利益25,347百万円、経常利益26,391百万円、当期純利益18,199百万円となり、いずれも過去最高を更新しました。

キャッシュ・フロー計算書のPOINT 積極的な株主還元

株主還元のため実施した自己株式の取得による支出60億円および配当金の支払額48億円が、財務活動によるキャッシュ・フローに含まれております。

